

**次代を担う人材の育成、企業発展への戦略、豊かな社会生活の創造。  
情報リテラシー教育はいま、教育機関はもちろんのこと、  
ビジネス、地域社会全体にわたり、  
非常に重要かつ早急に取り組むべき課題のひとつである。**

情報リテラシーとはいったい何か。英語のliteracyの意味は、読み書きの能力。  
つまり、情報リテラシーとは、情報に関する対応能力を指す。  
現代の情報化社会においては、読み書きができることと同じように、  
パソコンを利用して様々な情報を自在に使いこなす能力  
「情報リテラシー」が不可欠となっているのだ。



ここでは、情報リテラシー教育をキーワードに、総合情報処理センターの取り組みを紹介。また同時に大学という教育機関だけでなく、地域やビジネス社会における情報リテラシー教育をとりあげ、いま求められている情報に関する能力とそれを身に付けるための教育のあり方を探る。

総合情報処理センターでは、長野センター長を中心とするメンバーが、日々、情報リテラシー教育をはじめ、新たなネットワーク整備やマルチメディア機器の導入など、学内のあらゆる業務の情報化に向けて取り組んでいる。写真右から、長野勇センター長、車古正樹助教授、松本豊司講師。

## ●IT社会へむけて

### IT基礎技能講習会

#### 誰もがITの恵を受けられる社会へ

全国の都道府県で、一般を対象にしたIT基礎技能講習会がスタートした。石川県でも今年1月から、県内の学校や公民館、民間の施設などを利用して講習が始まり、来年3月までに約57,000人の受講を予定。講習会は、県内在住

の20歳以上の方なら誰でも受講できる。

#### 社会の急速なITへ対応

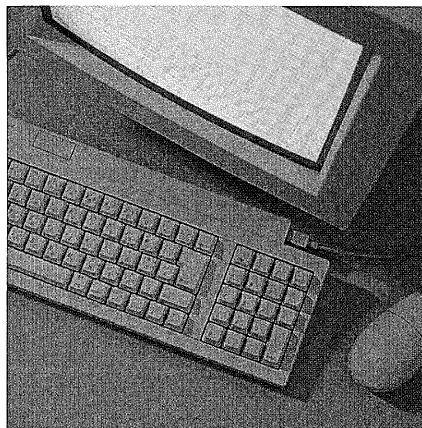
近年の急速なIT化にともない、各役所の手続きなど、一般生活の中でも、様々な場面でパソコンに触れる機会が増大。せっかくの便利なサービスも、

パソコン操作ができなければ受けられないという事態もすでに出始めている。国の方針としても、この5年以内に世界最先端のIT国家を目指すとしており、パソコンなどの基本操作を身につけることは、社会生活をおくる上で必要不可欠といえそうだ。このような状況の中、IT基礎技能講習会という多くの方が参加できる機会を設けることは、IT化社会を推進する上で非常に重要な役割を担っている。

## 総合情報処理センターの 情報リテラシー

金沢大学総合情報処理センターは、金沢大学の情報化の中核として、研究支援、教育支援、ネットワーク支援、業務支援の大きく4つの役割を担っているが、情報リテラシー教育はそのすべてに欠かせないキーワードである。ここでは、総合情報処理センターの情報リテラシー教育について紹介する。

## 次代を担う人材を 育成する 情報リテラシー教育



## インターネットで 申請届出や施設予約

講習会では、IT(情報通信技術)とは何か、何ができるのかといった内容か

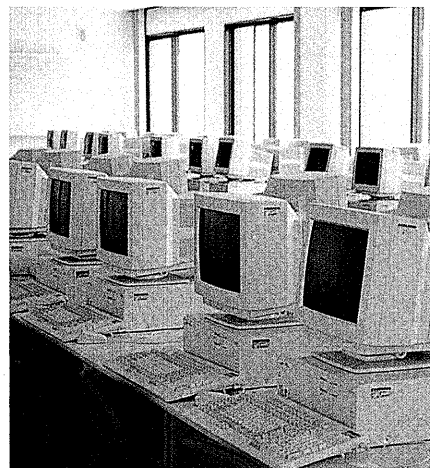
## パソコン約200台の配備 とネットワーク整備

現代社会においては、ビジネスから一般の社会生活にいたるまで、パソコン、インターネットは欠かせない存在になりつつある。次世代を担う人材を育成するという意味でも、大学での情報リテラシー教育の重要性は増すばかりだ。また、時代のニーズにあわせた、より高度な教育も求められている。金沢大学において、この情報リテラシー教育の中心を担うのが総合情報処理センターである。

センターは現在、第1実習室に61台、第3実習室に62台のパソコン、第4実習室に50台のワークステーションを配備。

らはじまり、インターネットに必要な機器や、パソコンの基本操作、簡単な文書の作成、インターネット・電子メールの使い方などについて学ぶことができる。また、講習の中では、石川県のホームページも取り上げ、県の申請届出書式のダウンロードの方法や、施設予約の方法など、インターネットの便利な利用方法なども紹介している。

ITを活用することで、各種チケットの予約、ショッピング、銀行の残高照



それぞれのパソコンにはMicrosoft Office(ワープロ、表計算ソフト)やAL-Mail(メールソフト)をはじめ、WSMGR V4.1(汎用機接続用)、Borland Delphi 3(プログラム言語)、Visual Basic 5.0(図形処理言語)など様々なソフトウェアが装備され、中には、デスクトップ上でリアルタイムのビデオ会議を実現するCU-SeeMeを搭載したものもある。

会や送金手続き、役所での書類申請など、簡単で便利になるものも多い。現代社会では、生活をより快適にするための情報リテラシーも必要である。

IT基礎技能講習会  
<http://www.pref.ishikawa.jp/johosei/itkou/index.html>





総合情報処理センター内の休憩スペース。講義の合間に、ちょっとパソコンから離れて息抜きしたいときに利用されている。設置されたTVモニターで、その日の実習室の時間割表なども確認できる。

る。また、高速通信を実現するギガビットネットワークの整備も進行中で、ハード、ソフトの両面において快適な利用環境がつけられている。

金沢大学では、これらのセンターの設備を最大限に活用し、まずは新入生を中心に、電子メールやホームページ作成など、インターネットを使いこなすことを目標とした教育を行っている。

### 教育方針は「自分でやってみる」

センターでのパソコン教育は、「自分でやってみる」ことを一つの教育方針としている。

現在、一般教養として情報処理演習の講義が行われているが、講師によっては、簡単な説明のあとはテキストにある課題を自分でやってみる、そしてレポートも電子メールで提出、というスタイルをとっている。最低、電子メールを使えなければレポートも提出できないというわけだ。講師は本当に困ったときのサポート役である。またユーザ室には、『まずは自分の頭で考え

よ!』『次は利用の手引きにあたれ!』『それでもわからなければ人に聞け!』『苦労しただけ喜びは大きいぞ!!』というパネルが掲げられている。パソコン



ユーザ室のパソコンを利用する留学生ら。講義の課題に取り組んだり、日本語の勉強に、毎日のように利用する学生も多い。また、日本は他国に比べて、まだまだインターネットへの接続料が高いのが現状。ユーザ室では、ネットワークを利用して、自国と電子メールをやりとりする留学生の姿もよくみられる。

## ●都市、市民生活の中での取組み

### 金沢市生きがい情報作業センター

#### 情報化で高齢者、障害者の生きがいづくりを

金沢市生きがい情報作業センターは平成11年3月、高齢者と障害者を対象とした全国初のテレワーク（情報通信技術を活用した就労）施設として誕生。現在は、パソコンはもちろん、テレビ会議システムや点字プリンタなどの最新の情報通信設備が整備され、パソコン

技術を習得した登録者らが、ホームページの作成やテープ起こし、点字翻訳などのデータ処理業務を行っている。また、施設は金沢市内在住の55歳以上の方なら自由に利用が可能で、パソコンに興味を持つ人たちが集まり、インターネットや電子メールを楽しんでいる。

#### 仕事の提供とテレワーカーの育成

テレワークとは、パソコンなどの情

報通信技術を活用した就労で、時間や場所が限定されず能力に応じた仕事ができることから、定年後の高齢者や障害者らの就職機会の増大も期待されている。センターは、このテレワークの拠点として仕事を提供するほか、パソコン教室の開催や先輩のテレワーカーのボランティアにより、テレワーカーの育成にも努めている。

ここでは、パソコンは、テレワーカーたちが十分に能力を発揮するため、

は、手取り足取り教えてもらってもなかなか自分のものにならない。自分のホームページをつくってみたい、どうしても課題をメールで提出しなければならないなど、目的をもって、試行錯誤しながら「自分でやってみる」ことが一番の早道。ユーザ室のほか、実習室のパソコンも講義以外の時間は、利用者が自由に使えるようになっている。学生らは講義以外にもセンターを訪れ、パソコンに取り組んでいるのだ。

### webカメラで利用状況をリアルタイムで確認

総合情報処理センターではホームペ

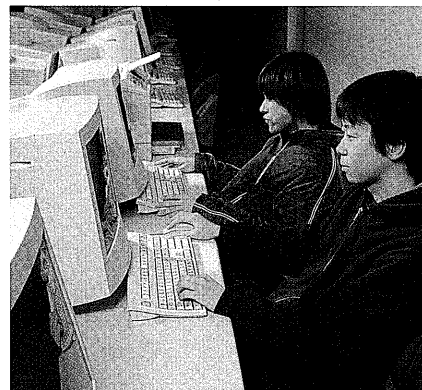
また社会参画を実現するツールとして大きな役割を果たしているのだ。

### パソコンで社会とコミュニケーション

センターには、テレワークを目的とする以外に、余暇の時間を利用して、パソコンを触ってみたい、インターネットをしてみたいという利用者が訪れる。シニア向けパソコン教室も定期的に行われているが、利用者らは教室以

外でも、互いにわからないところを教え合っている。センターは、情報通信を使った新たなコミュニケーションを図ることができると同時に、実際の仲間づくりの場にもなっているのだ。また、パソコンを学んだあとに自分でパソコンを持つ人も多い。テレワーカーとして登録して仕事をしたり、ホームページをつくって趣味の世界を広げたり、ボランティアで初心者への指導を行ったり、様々な形で生きがいを見つ

ページ (URL <http://www.ipc.kanazawa-u.ac.jp/>) を開設し、センターならびに学内のネットワーク利用に関する様々な情報を発信している。実習室の利用予定なども公開されているが、同時に実習室やユーザー室の実際の風景をwebカメラにより放映 (URL <http://www.ipc.kanazawa-u.ac.jp/camera.htm>)。webカメラの映像は1分毎に更新され、利用状況をリアルタイムで確認することができる。また、今後はiモードを使って空き時間を確認できるシステムも導入予定で、情報マルチメディアを駆使し、利用者の利便性を図っている。



実習室で情報処理教育実習を受講する学生ら。指導教官はサポート役となり、一人ひとりがパソコンにむかい、黙々とその日の課題に取り組んでいる。実習中に課題が終わらず、さらに居残る学生も。



ユーザ室では、天井から「まずは自分の頭で考えよ!」「次は利用の手引きにあたれ!」「それでもわからなければ人に聞け!」「苦勞しただけ喜びは大きいぞ!!」というパネルが吊り下げられている。これが、パソコン上達への早道。

### 利用マナー・モラル意識を持った、情報リテラシーを

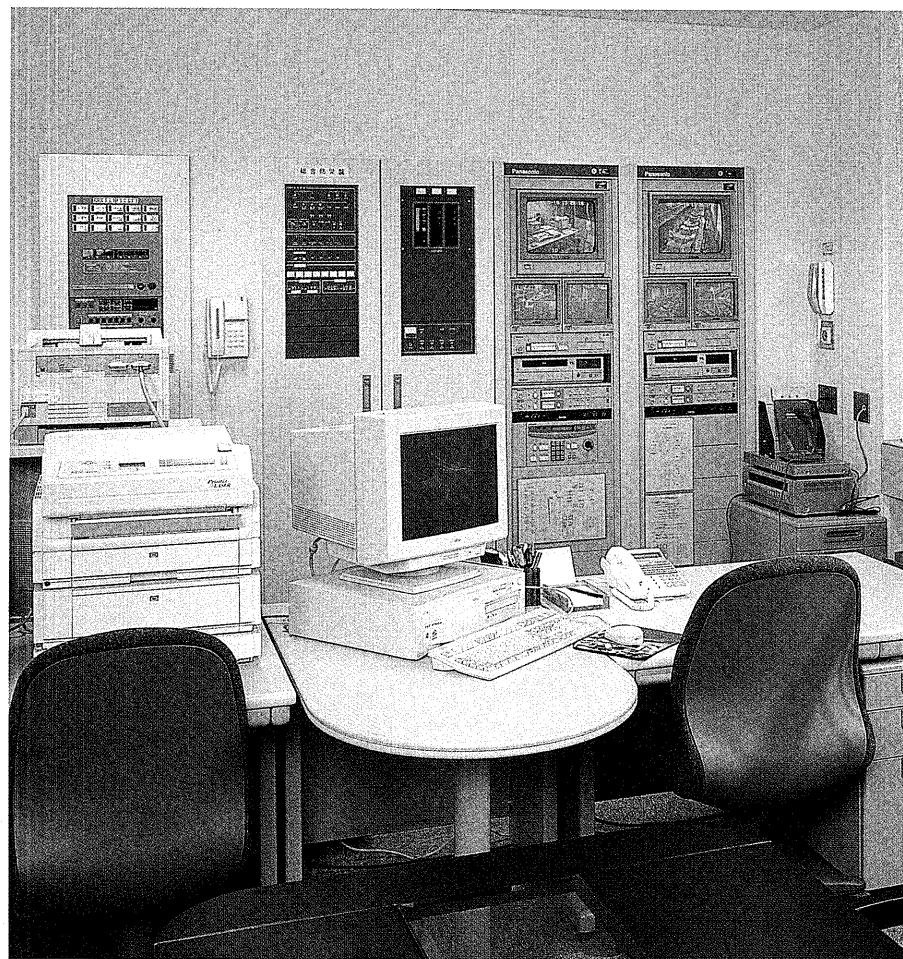
#### ネットワーク利用に関するガイドライン作成

ホームページにはこのほか、「ネットワーク利用に関するガイドライン」な

け出している。

金沢市生きがい情報作業センターにとって、情報リテラシーとは、パソコンをひとつのコミュニケーションツールとして使いながら、積極的に社会に出て行く、社会とのつながりを持つ能力でもあるのだ。

金沢生きがい情報作業センター  
<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/ikigai/>

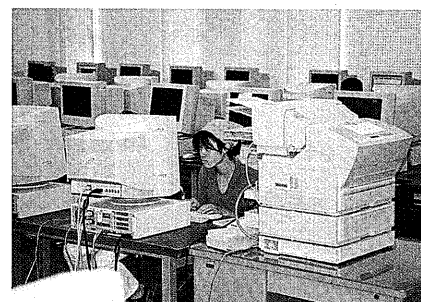


ど利用に関する様々なガイドラインを掲載。学内への周知とマナー・モラルの向上に努めている。

近年のインターネットの急速な普及にとともに、その利用の際のマナーやモラルに関する問題もあとを立たない。顔が見えにくいということから、ネットワーク上で他人の中傷などモラルを欠いた発言をしてしまう、事実とは異

なる情報を公開する、チェーンメールを送るなどの行為から、他人のファイルの改ざんや不法アクセスなど法令に違反するハッカー行為まで、重大問題に発展する可能性も大きい。知らなかったでは済まされないのが現状である。情報リテラシーとは単にコンピュータを使えることではない。コンピュータを道具として使いながら、必要な情報

をあやつり研究や処理業務を円滑に行うこと、世界中の人々とスムーズなコミュニケーションを図ることが、大学また社会における情報リテラシーである。この情報リテラシーには、ネットワークの利用マナーとモラルを欠くことはできない。総合情報処理センターでは、今後も情報リテラシー教育の一環として、講義や講習会などにおいても利用者の意識の徹底を図ることにしている。



## ●ビジネスへの活用

### 商店街eコマース (電子商取引)講習会

#### インターネットで 商店街の賑わい創出

石川県では、県内各地の商店街の空き店舗などを利用して『商店街eコマース(電子商取引)講習会』を開催。中小の商店主、また消費者に対して、ホームページを活用して商品の売買を行

うeコマースの普及を図っている。

eコマースでは、顧客は地域を限定せず全国各地に広がり、さらに、商品の売買だけでなく、ホームページによるPRで商店自体の魅力アップにもつながるという利点がある。中小商店主らに、インターネットなどの情報通信技術を身につけてもらい、今後の商店経営に役立ててほしい。また、個々の商店だ

けでなく、商店街全体の魅力づくりにも活用し、賑わい創出を図るのが狙いだ。

#### 情報通信技術を どう経営に取り入れるか

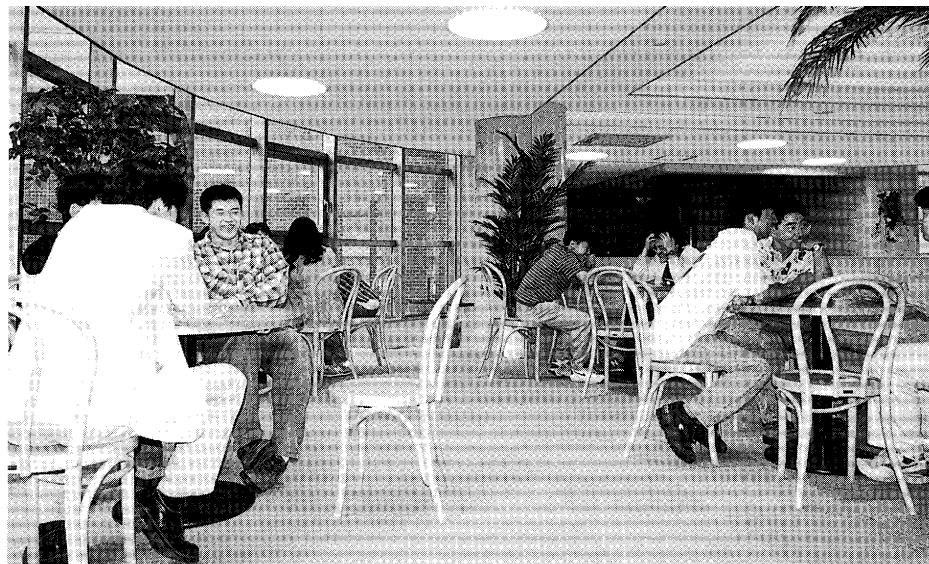
ここでの商店主らにとっての情報リテラシーとしては、パソコンやインターネットを使いこなすことはもちろんのこと、ビジネスとして役立てるためには、消費者のインターネットやオン



## 学生全員にメールアドレス 提供 共有スペースへは パソコンを配置

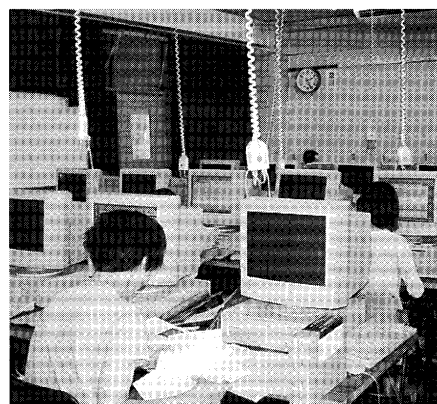
センターはこのような学生への情報教育を支援してきたが、一方で、現在の設備、講師の人数では、全学生の利用は難しいという現状も抱えている。

金沢大学では、今年11月に高速大容量のネットワーク『ギガビットネットワーク』を構築。センターでは、このギガビットネットワークの整備にあわせ、このネットワークをより多くの学生が利用できるよう、学生全員にメールアドレスを提供することや、図書館や各学部のラウンジなど学生の共有ス



ペースへのパソコンの配置、情報コンセンツの設置、さらにVODシステムの導入を進めている。ギガビットネットワークでは、学内のすべてのパソコン端末が同時にインターネットにアクセスしても画像や動画をスムーズにみることができるといふ。学生や教職員らは、総合情報処理センター施設内だけでなく、学内の様々な場所でパソコンに触れることができ、また、ノートパソコンなどを使えば自由に高速のネットワークを活用できるわけだ。

総合情報処理センターは、金沢大学キャンパスインテリジェント化の中核に位置している。今後もさらにネットワークの利用環境整備を進め、金沢大学全体の情報リテラシーを飛躍的に向上させたいと考えた。



ラインショッピングの利活用状況、ニーズなどを把握し、その上でホームページという情報メディアを自らの経営にどう取り入れていくかを考える能力が必要である。しかし、中小商店にとっては、パソコン自体に触れる機会が少ないために苦手意識から脱しきれないという現状。まずは難しいという意識をなくし、使ってみて、一つの経営手段として捉えることから始めなければならない。

## eコマースを疑似体験 ホームページを作って、 お買い物も

商店街eコマース講習会は、パソコンとeコマース体験用ソフトが用意され、実際にパソコンを操作しながらeコマースを疑似体験できるというもの。参加した商店主らは、デジタルカメラで撮影した商品情報や自らの顔写真を取り込んで、簡単に自分のお店のホームペ

ージを作成、さらに、ホームページを訪れた消費者として買い物も体験できる。

県ではこの講習会開催が、これからの商店街にとって、情報通信技術を活用した新たな道を切り開くための第一歩となることを期待している。

石川県商工労働部地域産業振興課  
<http://www.pref.ishikawa.jp/shinsei/kabetsu/shoukouroudou/k-tiiki/index.html>